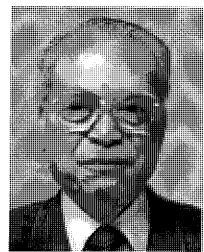


『渡邊清次郎回想録』について(前編)



元練習帆船日本丸船長
元東京商船大学教授

橋本 進

【はじめに】

平成16年(2004)7月19日「海の日」の翌20日(旧海の記念日)午前、渡邊清氏が東京海洋大学を訪れ、氏の曾祖父渡邊清次郎氏の遺した『渡邊清次郎回想録』を寄贈された。

明治9年(1876)7月、奥羽御巡幸中の明治天皇は青森から御召艦明治丸に座乗され、函館を経て7月20日横浜に還幸された。このとき渡邊清次郎は明治丸に乗艦しており、その縁で、明治丸を保存している東京海洋大学に『渡邊清次郎回想録』を寄贈されたのである。

この回想録については、塩飽諸島の関係者や研究者の間でその存在は知られており、研究もなされているが一般の人にはほとんど知られていない。渡邊家からの折角の寄贈を機に、その内容を原文のまま掲載し、それに解説を加えて紹介することにした。

渡邊清次郎については「後編」で詳述するが、

彼は弘化4年(1847)11月25日、本島・泊浦^{うら}で生まれ、昭和13年(1938)4月18日、東京で没した。享年92。

なおここで、「海の日」と「海の記念日」について再考しておこう。

【海の日】

「海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う日」として、1995年(平成7年)に「海の日」が制定され、翌1996年(平成8年)から施行された日本の「国民の祝日」の一つである。制定当初は7月20日であったが、2003年(平成15年)の祝日法改正(ハッピーマンデー制度)により7月の第3月曜日になった。

ちなみに、月曜日に移動した国民の祝日は次のとおりである。

①成人の日…1月15日(小正月であり、「元服の儀」がこの日に行われていた)

1月の第2月曜日

②海の日…7月20日(旧海の記念日)

7月の第3月曜日

③敬老の日…9月15日(奈良時代、元正^{げんしょう}天皇が「養老の滝」に行幸された日)

9月の第3月曜日

④体育の日…10月10日(東京オリンピックの開会式の日)

10月の第2月曜日

【海の記念日】

明治天皇の奥羽・北海道御巡幸は、明治9年(1876)6月2日に東京を出発し、7月14日陸路青森御到着、7月16日海路函館に向かわれて後、7月18日発、再び海路で横浜に還幸されるというものであった。そして、この御座乗船となったのが明治丸で、7月20日午後8時10分、横浜に帰着した。

この横浜帰着の7月20日を「海の記念日」と

することを、昭和16年(1941)5月29日の定例次官会議で報告説明、同6月5日、内閣書記官長名で各省次官に通達が出され、ここに7月20日を海の記念日とすることを正式に決定した。

当初、海の記念日は3月6日とする案があった。この日は、明治丸が英国から横浜に回航されて間もない明治8年(1875)3月5日、横須賀造船廠で日本海軍が国内で初めて建造した軍艦清輝の進水式があり、この進水式に臨御された明治天皇が翌3月6日に初めて明治丸に乗船され横浜まで座乗された日なのである。

明治天皇が初めて明治丸に座乗された3月6日を記念日とせず、7月20日とした経緯については、時の通信大臣村田省蔵の次のような談話が、それをよく物語っている。

「…海の記念日を七月二十日としたのにはいろいろな考えがあった。第一に、記念日は冬であつてはいけない。夏でなくては海に出る人間が少ないということが一つ。もう一つは学生諸君に海の思想を大いに吹き込みたい。それには学生の休みのときがよい。ということを先ず考えた：」

また、明治丸について、「海の記念日」制定の参考資料の中に次のような記述がある。

「…東北御巡幸の際ニオケル御召船タリシ光栄ニ輝ク明治丸ハ世態ノ変遷ヲヨソニ超然トシテ東京高等商船学校の繋留池中ニ白色ノ船体

ニシツプ型ノ三櫓ヲ樹テ冒シ難キ昔年ノ品位ヲ保チ貴キ生ケル史実トシテ世界ノ大洋ニ雄飛セントスル若キ海ノ児ヲ鼓舞育成シツツアルハ周知ノ事ナルモコノ船体コソ海軍ノ三笠ニ匹敵する海ノ至宝永ク保存愛護シテ失ウコトナカラシメヨ」(カタカナは筆者)

このように、かつては「軍艦三笠」が「海軍記念日」のシンボルであつたように、明治丸は「海の記念日」のシンボルであると言つても過言ではなかつたのだ。

渡邊清次郎回想録

【原文】

當年とつて八拾九歳の私が、拾四五の時から船に乗り出したのであるから、想へば随分舊い話である。何しろ御維新前後のことだから珍しいことにも危険な目にも出會はした。それを一々話してゐたら到底一朝一夕に盡されることではない。

古いことではあり、記憶に間違ひがないとも限らず、本来ならば少し時日を措いて貰つて本筋を辿つて話したいのであるが、折角の御來訪だから今日は記憶に浮んだまゝ、を漫然お話しすることにする。

私の生國は讃岐で那珂郡鹽飽本嶋泊浦の生れであるが、先祖はもとく天領のものであつ

て、豊臣太閤が例の朝鮮征伐をやつた當時六百五拾四人と云う人員が舟子の役を勤めたのであつて私の先祖もその一人だつた譯である。そして首尾よく朝鮮征伐の役が終つて凱旋したのが前述の鹽飽島であつたのである。凱旋した日は丁度八月一日であつたので、世間で五月五日の節句を尚武の節句としてお祝ひするのであるが、私の生れた此鹽飽島では八月一日を以て尚武の節句としてお祝ひする習慣になつてゐる。

今日であつて見れば、朝鮮征伐に海軍の艦のことを司つたのであるから、金鷄勲章だとか年金だとかを貰へるのであるが先祖達も慾が無かつたと見え、唯永住の地として瀬戸内海の鹽飽七島を六百五十四人で貰つたのである。その人達の子々孫々が次第に繁殖したのであるが私はその七島の中の本島といふ處で生れた。

このやうな先祖の後裔であり、場所が場所であるので、鹽飽島のは子供の時から海の仕事に慣れてゐる。舟を操ることや漁などは手に入つたものであつた。時世が段々と移り變つて生活に困つて土地を他手に渡したりしたものもあつたが海ばかりは自分の自由だ。少しの勞力さへ厭はねばどれだけでも魚がとれた。中でも鯛と鱒は有名なもので其等は鹽飽島の者が独占的地歩を得てゐたものである。

餘談になつたが兎に角鹽飽島に太閤の朝鮮征

伐時代に舟子の役をつとめた子孫があると言
 ことを聴き傳へて、幕府よりの依頼があり、志
 望者は時の海軍に編入するといふことになっ
 た。(ひらがなは筆者、以下同じ)

【解説】

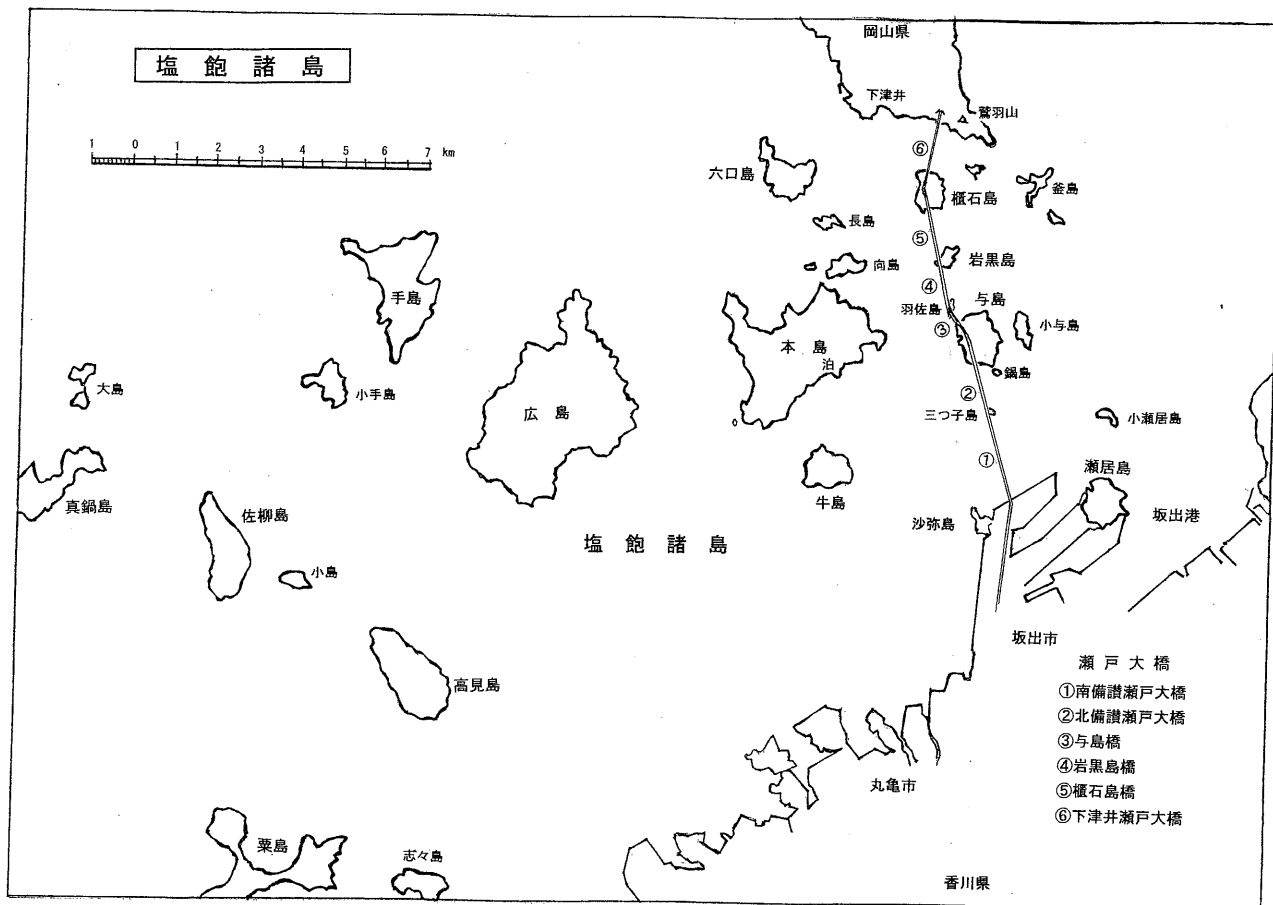
〔塩飽諸島〕…塩飽諸島は、塩飽七島(本島、
 牛島、与島、櫃石島、広島、手島、高見島)
 を中心とした島々からなっており、昔から塩
 焼く島、あるいは潮湧く島ともいわれたとこ
 ろから「しあく、しわく」の名がついたとい
 う。

塩飽諸島は瀬戸内海交通の要衝であつたと
 ころから、この島々の住民達は古くは海賊、
 後には水軍として活躍した。

水軍として利用した織田信長は、塩飽の
 船方に「触れ掛り」のお墨付を与えた。これ
 は泉州・堺港の出入りに当たり、船網75尋(約
 114メートル、以下mとする)の間で、も
 し他国船で邪魔をするものがあれば、その船
 網を切り捨ててもよいというものであった。

豊臣秀吉は塩飽の船方達に1, 250石
 の知行を与え、天領として自治制を布くこ
 とを許し、信長と同じく水軍として活用した。

徳川家康は秀吉と同じく塩飽を天領とし、
 さらに「永代漁業権」の朱印状をも与えて優
 遇した。このようなこともあって、第2次世



界大戦後も塩飽漁民は、付近漁民との漁業権争いの時にはこのお墨付を漁船の帆柱の上にくくりつけて漁業権を主張したという。

一方、万延元年（1860）日米修好通商条約批准交換のため、正使新見豊前守正興の一行がアメリカ軍艦ポーハタンで渡米するに際し、サンフランシスコまでの随伴艦として選ばれた咸臨丸の乗組員（水夫・大工・等）67名のうち、35名が塩飽の出身であったことはあまりにも有名である。ちなみに、塩飽出身35名の島名と人数は本島12、広島11、高見島4、櫃石島3、牛島2、佐柳島2、瀬居島1であった。

〔本島、与島、鍋島、牛島、広島および高見島〕：本島は周回18キロメートル（以下kmとする）の島で、泊には塩飽勤番所が置かれ塩飽諸島を統括していた。幕末になると幕府石炭貯蔵所が設けられていた。

与島の南に接するように鍋島があり、明治5年に灯台（鍋島灯台）が設置された。牛島は徳川幕府初期から9代将軍家斉の文政の頃にかけて約230年間、廻船問屋として栄えた丸尾五左衛門が拠ったところである。丸にやの字の船印を掲げ、いろは48文字に余る船名の千石船を持って、日本全国津々浦々に勇名を馳せたという。

広島は御影石の切り出しの盛んな島であ

る。

高見島は昔から除虫菊の栽培が盛んなところであったが、近年は過疎化に苦しんでいる。

〔小瀬居島と瀬居島〕：備讃瀬戸航路の南側、四国寄りの小さな島が小瀬居島である。その南側に瀬居島があったがいまは沙弥島、播洲とともに埋め立てられて四国の坂出と地続きになっている。

小瀬居島一带は昔から金山鯛（色は桜色で鼻のあたりに金粉をつけたような鯛）の漁場になっていた。この近辺の海底には金脈があり、流れも強いので鯛が頭をぶつつけるたびに金粉がつくのだという言い伝えがある。

〔瀬戸大橋〕：瀬戸大橋は昭和63年（1988）に完成した本州と四国を結ぶ連絡橋で、岡山県倉敷市の鷺羽山から香川県の櫃石島、岩黒島、羽佐島、与島、三ツ子島、播洲を経て坂出に至る。

瀬戸大橋は6橋からなり、鷺羽山・櫃石島間の橋を下津井瀬戸大橋、櫃石島・岩黒島間は櫃石島橋、岩黒島・羽佐島間は岩黒島橋、羽佐島・与島間は与島橋、与島・三ツ子島間は北備讃瀬戸大橋、三ツ子島・播洲間は南備讃瀬戸大橋と呼んでいる。全長9・4km、南備讃瀬戸大橋が最長で1,648mある。

〔天領〕：江戸幕府直轄の領地。

〔尚武の節句〕：端午の節句。

〔舟子〕：船方、水夫。

〔原文〕

日本で初めて西洋型船の建造せられたのは安政元年で相州浦賀に於て三本マストを有し外面は赤く塗り舳に鳳凰の型があるので鳳凰丸と名稱した。しかし此の船を操縦するものがない爲に幕府より大阪奉行に依頼して我等の先祖の朝鮮行の例にのつとり、鳳凰丸に石川利三郎と云ふ小頭、他二拾九人がそれ／＼浦賀に來たものである。（この石川は私の父の弟にあたるもので分家して石川姓となつた。これはこの石川本人から聞いた話である）和蘭からも後に折角船を献上して來たのであるが、それを操縦するものがないのはハタと困つた。

幕府では長崎傳習所取締永井玄蕃頭の申立により私が生れた瀬戸内海の鹽飽島、此處の屈強青少年が幕府に召さるゝことゝなつた。私もその内の一人であつた譯である。

それから江戸時代にも歐式の軍艦を黒船と呼んでゐた。

安政二年和蘭王が外車の船を我が國に献上し、これを觀光丸と名づけた。これは日本の蒸氣船の嚆矢だと云われてゐる。

これより問もなく内車の船二隻和蘭國より買上げ、これが我が國に到着する迄一隻を「日本」他の一隻を「江戸」と呼んでいたが、到着する

と同時に「咸臨」「朝陽」と改められた。

それから相次いで英國より同國王より同國王の御召艦であったものが献上され、これが蟠龍丸と名づけられた。(内車の船で三本マストを持ちフォアマストにのみ桁が二本あるもの)

咸臨丸は安政四年、朝陽丸は翌安政五年又蟠龍丸は同年に回航して来たものと記憶している。

【解説】

〔鳳凰丸〕…幕府は寛永12年(1635)6月に武家諸法度を發布し、そのなかで500石積以上の船の建造を禁止した。いわゆる「大船建造禁止令」である。

ところが嘉永6年6月3日(1853年7月8日)、アメリカ東インド洋艦隊司令長官ペリー提督は、旗艦サスケハナに搭乗し3隻の軍艦を率いて浦賀に来航した。

老中首座の阿部正弘は、黒船来航海防強化策として同年9月(1853年10月)に「大船建造禁止令」を解除し、浦賀奉行所に命じて大型航洋船の建造に着手した。この大船は嘉永6年9月19日(1853年10月22日)に起工、翌嘉永7年5月10日(1854年6月6日)に竣工し鳳凰丸と命名された。3本マストのバーク型で排水量約600トンであった。

船体の外観は漆で朱く塗装され、船首には

鳳凰の胸像型の船首像、船尾にも鳳凰の尾をかたどった彫刻のある華麗な姿であった。同時期、幕府は水戸藩に命じて旭日丸を、薩摩藩には昇平丸を建造させた。

〔長崎海軍伝習所〕…安政2年(1855)、老中首座阿部正弘は長崎奉行水野忠徳の構想を受理し、幕府海軍教育のために長崎に設けた機関で、安政5年(1859)閉鎖。

〔永井玄蕃頭〕…初代長崎海軍伝習所所長。

〔外車の船〕…外車船、パドルホイール船(外輪船ともいう)。

〔内車の船〕…内車船、スクリュープロペラ船。

〔觀光丸〕…オランダ国王ウィレム3世から將軍家定(13代)に献上。木造外車船、150馬力、3檣トップスルスクーナ、排水量400トン、安政2年(1855)6月長崎にて授受、原名スンビン。

〔咸臨丸〕…幕府がオランダに発注、木造内車(スクリュー)船、100馬力1基、3檣ダブルトップスルスクーナ、排水量625トン、朝陽丸と同型船、安政4年(1857)長崎に回航、原名ヤッパン(日本)。

〔朝陽丸〕…幕府がオランダに発注、木造内車(スクリュー)船、3檣ダブルトップスルスクーナ、咸臨丸と同型船、安政5年(1858)長崎に回航、原名エド(江戸)。

〔蟠龍丸〕…イギリス女王ビクトリアから幕府に

献上された木造内車(スクリュー)船、126馬力1基、3檣トップスルスクーナ、排水量370トン、安政5年(1858)長崎に回航、原名エンペロル。

【原文】

そこで愈々幕府の軍艦に乗ることになると一人當り一ヶ年に金貳拾五兩と二人扶持、是は一日に玄米壹升を貰ふもので恰度今の徴兵のやうに本人はそれだけ貰へるが残された家族の者は村から養つて貰はなければならぬ。その内車艦も觀光・咸臨・朝陽・蟠龍と段々殖えて來、それに一々幕府に召されて此島から乗組員が出ることになるが大變で、働き盛りの者はあなくなり老幼の養育は村が負擔しなければならぬのであるから事容易ではなかつた譯である。

さて私が愈々拾四歳の五月に幕府の軍艦に乗り組むことになった。その頃私共が江戸へ上がるには全く水杯をして別離を惜しんだものだ。今から想へば愚にもつかない話だが何しろ交通不便な時代だから是非もない。

丁度私の拾七歳の時國元から父が私を尋ねて來たが病氣を患ひ全快せぬ中に歸國を急ぎ四月中旬江戸を出発して拾五日目やうやく大阪に着いた話がある。いまなら拾貳時間以内で行けるのだと思ふと、私達が徒歩で往來した不便な時代が想ひ出されるとともに現代の何から何迄行

きといた有様には全く頭が下がる次第だ。

其後私が六十一歳の時、友人の神田區末廣町の寫眞店忠勇社の主人並に池の端の料理店々主中井氏等と「キャビネカメラ」を持ち箱根舊道を徒歩で乙女峠を越へ御殿場より歸京したことがあるが、此の時も先年父と共に歸國した當時と箱根の舊道などは別に變りがなかった。その時の旅行日数は四日か、つたと思ふ。

話はもどつて、私は子供心にも御上の艦に乗るといふ事は何となく愉快であつたので親戚や故舊とも勇んで別れを告げ蟠龍丸に乗るため出發した。

【解説】

〔貳拾五兩と二人扶持〕…平成15年(2003)

に出版された『武士の家計簿』(磯田道史)の天保14年(1843)7月の兩替データによると、米1石は約5万円であつたという。

1石は10斗、4斗は60キログラム(以下kgとする)であるから1石は150kgとなるので、米1kgは333・33(=50・000÷150)円で計算したことになる。

また当時、1兩で米0・9石が買えたという記録から、1石は55・555円と計算される。

平成25年2月現在の米価は1kg約380円であるから、米1石(150kg)の価格は

57,000円となり、1兩は51,300円(=57,000÷0.9)と計算される。以上のことから、25兩は128万2,500円となる。

次は扶持である。一人扶持は1日玄米5合の手当であるから、1か月1斗5升、1年で1石8斗となる。二人扶持は3石6斗(540kg)であるから、年間20万5,200円である。

以上のことから、「貳拾五兩と二人扶持」は現在の米価から換算すると148万7,700(=128万2,500+20万5,200)円と計算される。

〔拾四歳の五月〕…文久元年(1861)5月のこと。14歳になつた渡邊清次郎は幕府軍艦に乗艦のため江戸に向かつた。

〔キャビネカメラ〕…キャビネ版(12×16・5センチメートル)カメラのこと。

〔乙女峠〕…箱根・千石原から御殿場に抜ける乙女道路にある峠で、金時山(1,212m)と丸岳(1,093m)の中間にある。

【原文】

幕府の軍艦も九隻、諸船舶が三十六隻といふ風に殖へて来て、ますます乗組員に不足を告げ

るに従ひ後には伊豆や房州邊から漁夫などの屈竟な者を志願させ採用することになつた。

其の後風帆船千秋丸を文久元年米国より買求め、私は此の千秋丸に横濱で乗り込んだ。

この船長は鈴藤勇次郎氏、此の人は江川組の人。その他荒井郁之助・甲賀源吾・力石太郎・杉島氏外數名、又鹽飽島の者は古川庄八・石川政太郎・同太助氏並に私等拾數名。

この内荒井氏は海軍で云ふ航海長、甲賀氏は次長、力石氏は運轉士と云ふところだ。後荒井氏と甲賀氏は共に函館に行き脱走した。古川氏も同様だつた。同氏は榎本釜次郎氏と共に和蘭國に留学して朝陽丸を受取り本邦へ廻航した。また石川兩氏咸臨丸で米国に行つた人である。

先年米国のペルリ水師提督が始めて我が邦に來た時に足溜りを小笠原島に求め艦隊を調べ、これより浦賀外港下浦に入港した。此の時ペルリ提督の報告により、はじめて小笠原島のあることを知つた次第である。それで文久元年十二月に咸臨丸は八丈島より移民を乗せ小笠原島へ向け出帆した、その後千秋丸も移民用家屋もの切組材、並に石炭其他の需要品を満載して同十二月出帆し、伊豆下田、志州鳥羽港などに寄港し翌年二月紀州大島迄逆航、同港で飲料水を用意して直に出帆、三月始め漸く小笠原島に到着したものである。

小笠原島には先にペルリ提督が置いて行つた

と見へ、米人數名が居り、「玉葱、馬鈴薯、鶏豚」等が豊富であった。豚などは子牛程の大きのが居り、蝙蝠には烏くらのものが居つた。又伊勢海老も三尺許のものをとつて持ち歸つた外、色々珍しいものを持ち歸つたものである。

此時村の名を附ける事になり、奥にある村を奥村と名け、大きな方の村を大村とし、扇形の村を扇が浦と名づけた。又當港へ入港して右側に當る村は江戸の洲崎に似てゐるので洲崎村と名付けた。

この村に假病院をたてたのだが、それについて面白い話がある。

私達の同じ乗組員の中に病人があつて、戸板に乗せて洲崎村の病院に送る途中に小高き坂があつた。病人が餘り苦しさのため「南無阿彌陀佛」と申したので、此の坂をねんぶつ坂と名付けた。又次の坂にて「アイタアイタ」と云ふので此の坂を「アイタ」坂と名付けたものである。現在そう云ふ坂が有るかどうかは知らないが若し在るとしたら、之の一人病人が名附けの親と云ふ譯である。

話は少々戻つて、前記の蝙蝠を江戸に持ち歸り「キワモノシ」俗に「ヤシ」に金八拾兩に賣つたことがある。これを舊有馬邸、芝區森元町中の橋の向ふにある水天宮の縁日（毎月五日）で見かけたことがある。今日は濟生会及專賣局所屬地となつてゐる。

話變つて前記の荒井郁之助氏は回天丸の艦長として榎本氏と共に函館に行き、後海軍奉行となり東京に歸つて氣象臺に居た人。又甲賀源吾氏は荒井氏の後回天丸の艦長となり、南部宮古灣で官軍甲鐵艦と交戦し戦死をされたのである。

【解説】

〔千秋丸〕…木造・3檣バーク型帆船、263トン、1851年アメリカ・ボストンで建造、文久元年（1861）横浜で購入。原名ダニエル・ウエプスター。明治期に回春丸と改名。

〔足溜り〕…ある行動のための根拠地。

〔ペルリ水師提督〕…ペリー海軍提督、ペリー海軍司令官。

〔鈴藤勇次郎〕…文政9年前橋に生まれる。長じて伊豆葎山代官江川太郎左衛門に身を寄せ、安政2年の長崎海軍伝習所の開設に伴い、第一期生として入所した。万延元年咸臨丸訪米に際しては運用方として乗り組んだ。帰航後に描いた「咸臨丸難航図」はあまりにも有名である。維新の際には病氣となり、一家を挙げて前橋に帰つたが明治元年8月榎本釜次郎等北海道に脱走するを聞き、自らこれに参加できないことを嘆いて自殺した。享年43

〔荒井郁之助〕…天保7年（1836）江戸・湯島に生まれた。嘉永2年（1849）昌平坂

学問所に入學、安政2年（1855）幕府出仕（100俵10人扶持）、後に海軍操練所教授となる。文久元年（1861）12月千秋丸乗り組みを命じられた。乗組員は船將・鈴藤勇次郎、測量方・荒井郁之助、運用方・力石太郎、測量方・甲賀源吾、軍艦操練所稽古人・杉島廉之助等の面々で、小笠原島開拓のために派遣された。文久2年（1862）軍艦頭取となり、講武所取締・歩兵指図役頭取・歩兵頭並をへて、明治元年（1868）軍艦頭となる。榎本武揚とともに旧幕府海軍を率いて箱館に脱出、箱館政權（俗に蝦夷共和国）では海軍奉行に就任した。降伏後、禁固のうちに開拓使出仕し、明治12年（1879）内務省測量局長、のち中央氣象台初代局長となる。明治20年（1887）新潟・三条町で日本初の皆既日食の撮影に成功。明治42年（1909）没、享年75

〔甲賀源吾〕…旧掛川藩士、安政5年（1858）幕府軍艦操練所に入り矢田堀鴻（矢田堀景藏、旧幕臣、長崎海軍伝習所第一期生、後に幕府海軍操練所教授を経て幕府軍艦奉行となる）に師事。文久元年（1861）軍艦組出役。文久2年外国奉行水野忠徳に従い小笠原開拓に従事した。慶應3年（1867）軍艦役勤方、海軍生徒取締役となる。明治元年（1868）軍艦頭並、回天丸船將として榎

本にに従い箱館へ脱走、宮古海戦で戦死した。
 〔力石太郎〕…箱館奉行支配組頭勝之助総領・箱館江戸書物用出役から長崎海軍伝習所（3期生）に学び、咸臨丸や千秋丸に乗船したが詳細は不明である。

〔杉島氏〕…軍艦操練所稽古人・杉島廉之助と思われるが詳細は不明である。
 〔古川庄八〕…天保6年（1836）塩飽・瀬居島に生まれる。21歳で塩飽勤番所から御用水夫を命じられ、同年8月長崎海軍伝習所の開所とともに水主技術の伝習に参加した。

文久2年（1862）3月、幕府はオランダへ蒸気軍艦1隻の建造を注文し、同時に留学生をオランダへ派遣することにした。留学生は内田恒次郎、榎本釜次郎等9名に加えて、軍艦建造の実地諸術研究に水夫頭古川庄八等が選ばれ、総員15名となった。

慶應4年8月、戊辰の役には榎本釜次郎（武陽）に従って箱館に脱走、後に赦されて横須賀造船所に勤め製綱部門で功績を残した。明治45年（大正元年、1912）没、享年78

〔石川政太郎〕…天保4年（1834）塩飽・本島の泊り浦に父利三郎の嗣子として生まれた。利三郎は本島・泊り浦の年寄として、政太郎と共に長崎へ召出され塩飽水主を宰領していた。

渡辺清次郎は従弟である。

万延元年（1860）政太郎26歳のとき帆立役として咸臨丸に乗船し、その往路について『安政七年日記』として日誌にまとめた。この日誌は咸臨丸航海日記類の中で、水夫の書いた唯一のものとして高く評価されている。

慶應4年8月、榎本武陽に従って箱館に脱走、後に赦されて横須賀造船所に勤めていたが、明治18年頃海軍4等工長で退官した。同年11月熊本で死去、享年76

〔石川太助〕…石川政太郎の弟太助、『幕末軍艦咸臨丸（上）』によれば、渡辺清次郎が筆者に同僚等の珍話を話されたとき、「（大助は）名うての乱暴者で、酒をあまり娼妓をかう。その不品行が祟り（千秋丸で）小笠原島へ着くとき、腰部に腫れ物が吹き出し歩行も困難であったが、彼は焼け火箸の真つ赤になったのを恐れもせず腫れ物へ突き通し、突然海中へ飛び込み潮水でその傷口を洗って遂に治療の功を奏した。かかる乱暴者なれば咸臨丸が難航の節など大いに役だった」と話している。

〔南無阿彌陀佛〕…阿彌陀仏に帰依することを表す語。浄土教ではこれを唱えること（称名）によって極楽へ往生できるといふ。

〔なんぶつ坂〕…念仏坂、現在この地名はない。

〔アイタク〕…「イタイイタイ」（痛い痛い）のこと。

〔アイタ坂〕…現在この地名はない。

〔水天宮〕…福岡県久留米市に全国の水天宮の総本社がある。祭神は天御中主神（あめのみなかめしのかみ）・安徳天皇・建礼門院（安徳天皇の母）・二位尼平時子（平清盛の妻）。舟人の守護神として尊信が篤い。ここでは東京日本橋蛸殻町にある神社。文政元年（1818）久留米藩主有馬頼徳が本社の分社として勧請したのに始まる。水神、また、安産の神として信仰されている。

〔原文〕

慶應二年二月、私は千秋丸を下船して築地小田原町の海軍操練所に入所したり明年回航する開陽丸に乗込む爲めに人員を募集した。

是等の者に實地練習をさせ、翌三年五月横濱に入港する開陽丸の歸國を待った。開陽丸入港と同時に總員が乗込み和蘭より回航して来た同國人と交代した。毎日總べての練習を日課通行ひ、港外練習も度々行つたものであつた。其の内世間が段々騒がしくなり、又慶喜公の京都御没落となり、江戸市中を警戒する爲め（酒井藩又は坂井藩か此の所記憶なし）これらの者が巡回して居た。

然るに此頃薩摩藩士が夜中横行して面白からぬ噂あり、其の十二月二十五日、終に兩藩衝突して芝、三田の薩摩屋敷に自分で放火し、品川沖に碇泊の同藩の汽船で兵庫港へ向け出帆し

た。此の船の船長は伊東祐亨氏で後に海軍軍令部長大将元帥とられた。

これより二ヶ月も以前に開陽丸は既に兵庫に回航して居た。

此の江戸の騒動を慶喜公初め開陽丸にも通知があつた。その頃の通知の模様を一寸話して見よう。當時至急報のことを早打飛脚と云ひ、駕籠に人を乗せるには駕籠桐棒木に白木綿を通し内に居る者の體の上よりこれを巻き、本人は兩手で其の布で體を空につり、腰足の痛まぬ様に注意し、又擔ぐ人夫は四人、外に前に引く者と後より押す者で次の驛で渡したものである、この驛には豫ねて通知が來てゐるものであつて、前の驛同様直に交代して晝夜兼行、平均四日位で大阪に着く様な状態であつた。

【解説】

〔海軍操練所〕…明治2年(1869)9月、明治政府(兵部省)が近代海軍創設のため東京築地の広島藩邸跡に創設した海軍士官の養成機関。大藩5人、中藩4人、小藩3人ずつ進貢の修業生を選抜入所させ、そのほか約100人の通学生徒で同年11月に始業した。翌年11月海軍兵學寮と改称、明治9年(1876)8月には海軍兵学校と改組・改称した。

〔開陽丸〕…オランダ・ドルトレヒト市のヒップ

ス・エン・ゾーネン造船所で建造することになり、文久3年(1863)8月起工し、慶應元年(1865)進水した。当初で艦装後、フリッシンゲンのオランダ海軍工廠でドイツのクルップ社より送られてきた最新鋭の大砲等が搭載され、慶應2年10月に完工した。幕府はこの新鋭艦を「開陽丸」と命名し、直ちに日本に回航するようオランダ政府に要請した。デイノー艦長以下109名のオランダ人乗組員と榎本釜次郎以下8名の幕府オランダ留学生を乗せて、慶應2年10月25日(1866年12月1日)フリッシンゲンを出航し慶應3年3月26日(1867年4月30日)横浜に到着した。

明治元年(1868)1月3日、戊辰の役勃発後、15代將軍徳川慶喜を乗せて江戸に帰還した。同年8月榎本艦隊の旗艦として江戸湾を脱出し箱館に入ったが、11月15日江差沖で荒天のため座礁し沈没した。

長さ72・8m、幅13・04m、排水トン数2,590トン、木造3檣ダブルトップスルスクーナ、400馬力蒸気螺旋1基、速力10ノット、搭載砲26門。

〔薩摩藩邸焼打事件〕…慶應3年(1867)12月25日、江戸の鹿兒島藩邸と佐土原藩邸が幕府の命により攻撃された事件。同年10月頃から、鹿兒島藩の西郷隆盛が江戸と関東撓乱を

計画、浪士を同藩邸に集め、下野国出流山(現・栃木市)での挙兵を皮切りに江戸市中の撓乱を開始した。これは大政奉還後の政局に対する討幕派の政治的挑発で、幕府は鶴岡藩兵を中心とする武力によって両藩邸を攻撃した。この事件が鳥羽・伏見の戦いの発端となった。

〔伊東祐亨〕…天保14年(1843)鹿兒島藩士の家に生まれる。薩英戦争などに参加し、維新後海軍に入り、多くの軍艦の副長・艦長を歴任し、海軍省第一局長兼海軍大学校長を経て、明治25年(1892)中将に昇進し横須賀鎮守府司令長官となる。明治26年常備艦隊司令長官となり、日清戦争勃発とともに初代の連合艦隊司令長官に就任、各海戦に勝利を収める。戦後は海軍軍令部長・大将となり日露戦争にも勝利した。明治39年(1906)元帥、明治40年伯爵、大正3年(1914)没。享年72

〔駕籠〕…乗物の一つ。古くは竹、後には木でも作り、人のすわる部分の上に1本の轆(ながえ)を通し、前後から昇(か)いて(肩にかけて)運ぶもの。身分・階級・用途などにより種類が多い。庶民が使うのは「辻駕籠」(町の辻に待っていて客を乗せる駕籠、町駕籠ともいう)や「山駕籠」(竹などで編み、垂れがなく、丸棒または丸竹を釣り手とした粗末な駕籠。山奥ともいい、道中・山路に用いられた)で

あつた。

〔駕籠桐棒木〕…山駕籠（道中・山路に使用）の轆（担い棒）には桐の丸太を用いた。軽くて柔らかいので担ぎ人の肩および手を痛めないからだという。

〔原文〕

慶應四戊辰年正月元旦開陽より春日へ江戸で薩藩士の衝突のあつた次第を委しく傳へ、談判をした後遂に二日正午迄に回答する由を聞いた。然るに其の夜九時頃、ボートで榎本艦長外七名、春日の偵察に行き私はボートの「コックスン」であつた。

春日に近づいて見れば、煙突よりは火の粉だけが出て黒煙が出て居ないので察するに薪炭で「スティム」を作り夜逃するのだと思ひ、直ぐ本艦に歸り諸艦に通知し長鯨丸を一隻残しただけで、他は皆港外に出た。

註 此の時春日の近傍に行き様子を見ると船中では非常な混雑をして居た。或人は、之を撃てば必ず命中し袋のネズミ同然だと云つたが、榎本氏は頑として聞かず、「陸上の人民には何の恨みもない」と申したことがあつた。依つて大阪或は堺沖を「ヒーブツ」して居る内、其の夜半頃間に紛れて春日と他の一隻は阿波へ、外の一隻は瀬戸内海より薩摩灣に歸つたと云ふ通知は長鯨より聞き、直ぐ我開

陽丸は全速力を以て其の後を追ひ阿波の國の大島沖で他の一隻と出會ひ、春日と開陽との海戦が行はれたのである。

〔解説〕

〔慶應四戊辰年正月元旦〕…慶應四戊辰（つちのえ・たつ）年正月元旦、慶應4年（1868）1月1日。

〔春日〕…薩摩藩軍艦、木造外車船、帆装3檣トツプスルスクーナ、長さ81・0m、幅9・6m、排水量1,015トン、蒸気機関300馬力1基、原名「キャンサー」。文久3年（1863）英国カウに於いて船体、同国サフヘントに於いて機関製造。慶應3年（1867）11月、長崎に於いて授受。戊辰の役では新政府海軍に属し、阿波沖海戦、宮古海戦、箱館海戦に参加した。

〔コックスン〕…ボートのコックス、かじとり。

〔長鯨丸〕…幕府輸送艦、鉄製蒸気外車船、長さ75・8m、幅10・9m、排水量996トン、蒸気機関300馬力1基。原名ダンバートン、1864年イギリスのグラスゴーで建造された。慶應2年（1868）幕臣小野友五郎は、第2次長州征討に備えてこの艦を横浜で購入した。その長州征討のさなか、徳川14代将軍家茂が大坂城で没したのでその遺体を江戸まで運んだ。戊辰の役には榎本艦隊に属し、明

治2年5月の箱館戦争終結時に新政府が捕獲した。その後、民間に払い下げられ「万里丸」と改名され、明治13年（1880）まで使用された。

〔スティム〕…ステイム、蒸気

〔ヒーブツ〕…ちちゅう（踟躕、Heave to）、船舶が帆や機関を操作しながら錨を使わずに海上のある一点に留まること。

〔春日と開陽との海戦〕…慶應4年1月3日夜半、摂津湾（大阪湾）を脱出した薩摩藩の春日丸・平運丸と、これを追跡した幕府海軍開陽丸が阿波国（徳島）大島沖で戦った。この海戦を俗に阿波沖海戦と呼ぶ。

〔原文〕

此の時江戸にて諸荷物を積込んだ船が陸地へ向けて直角に航行して居た。此れを或人は其の船に罪有りと云つたが、榎本艦長は又頑張つて聞かず、春日は「ウインプル」を上げてゐると申された。此の「ウインプル」とは和蘭語で英語では「ベンデント」と云ふ。之れは軍艦の「三本マスト」の場合は「中央マスト」の上に、又「二本マスト」の時は後のマストに掲げるものである。

開陽も春日も同じ型の艦である故春日と對戦した時は、銘々の砲弾が命中し、開陽も見事に一發見舞われ、二ヶ所破損された、「ミズンマ

スト」と「フォア、ロアヤード」と少々で事なきを得た。翌三日夜天保山沖に碇泊した。岸近く米国軍艦「ガンボート」一隻、之は幕府側、外に英国軍艦一隻、これは官軍側なのである。此艦は英国と佛國との「セバストポール」の海戦で彼の有名な「ネルソン」提督の乗った軍艦と似寄艦で船體は非常に高く大砲も三段に備り、砲の數も四十門程有るのだが後ろにある上下の分は皆木砲で飾り砲である。今から思へば全く面白い話だ。此の速力は一時間に八「ノット」位のもの。

注 ネルソンの乗っていた船は風帆型で戦闘の場合には「スチームボート」で左右に駆け廻ると云ふ事を聞いたことがある。

此艦は「フレゲット」型で其軍艦を見た者は現在の海員中には私の外數多くないと思ふ。

【解説】

〔ペンデント〕：一般に長い旗の総称である。「pennant」の正式綴りは「pendant」だがペナントと発音する。ペナントは信号・裝飾・各種ラント表示に用いられる。英海軍の軍艦は商船と区別するため、メインマストに掲げた非常に長く幅の狭い長旗。ここでは、春日がペナントを掲げた薩摩藩の軍艦であることを云ったものである。

〔天保山〕：大坂を流れる安治川の洪水防止と大

坂への大型船の入港を容易にすることを目的に、天保2年（1831）から2年間「天保の大川浚」と呼ばれる浚渫工事が行われた。浚えられた土砂は川口の左岸に積み上げられ築山となり川口の目印となった。そのため、当初は「目印山」と名づけられたが、のちに築かれた時の元号から「天保山」と称されるようになった。

目印山の高さは当初は約10間（18・18m）ほどの高さがあったが、時代の変遷によって現在の標高は4・53mで、日本一低い山として知られ、山頂には「二等三角点」が設置されている。

その隣に慶應4年3月26日（1868年4月18日）明治天皇が新政府の軍艦を觀艦のため、この地に行幸されたことを記念した「明治天皇行幸記念碑」が立っている。参加した新政府の軍艦は電流丸（佐賀）・万里丸（熊本）・千歳丸（久留米）・三邦丸（鹿児島）・華陽丸（山口）・万年丸（広島）の6隻（合計2,452トン）で他にフランス軍艦1隻が参加した。

〔フレゲット〕艦：フリゲート艦、1750×1850ごろ上下2層の甲板に28門×60門の大砲を備えた大型木造帆船で、今日の巡洋艦に相当したもの。

〔注〕：この項は風聞の域を出ない。（つづく）

東海汽船

予約センター
TEL03-5472-9999

船に乗って
旅をしよう！



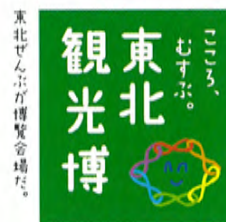
癒しの島
伊豆七島



りえ

ねこんちゅ

この2人の漫画を島ガール.comで連載中！！ <http://www.shimagirl.com/>



旅客船

NO.260



九州郵船株式会社
フェリーきずな

一般社団法人 日本旅客船協会

(Japan Passengerboat Association)

編集後記



○日本旅客船協会は、4月1日に「社団法人」から「一般社団法人」へ移行した。今後は、新定款に沿って総会、理事会を選挙することになる。移行後の最初の理事会、総会が今年の6月22日に開催される会議となる。役員改選期でもあり、理事会、総会、そして新理事による代表理事選定の理事会等と非常に時間にタイトな運びになる。また、協会の運営についても3月の理事会で見直しが行われた。正副会長、地区協会長からなる政策部会、企画部会を改組した観光部会等が新設された。協会活動の活性化、迅速化をよりいっそう図るための見直しである。また、年中行事ではあるが5月から6月にかけて各地区旅客船協会の総会が開催される。各地区の協会も、とにもかくにも総会が終るまでは、落ち着かない。

○今回、吉田公一氏には特別寄稿と

して「クヌツセン機関長の遺徳顕彰」の紹介をお願いした。昭和32年2月、和歌山沖で炎上した「高砂丸」乗組員を救出すべく自分の命も顧みず救助にあたったクヌツセン機関長。その功績を皆さんに広く知っていただきたく、執筆頂いた。是非ご一読願いたい。

○池田良徳氏は、瀬戸内海でのクルーズビジネスモデル（パート2）として、昨年3月の四国運輸局が企画した「レストラン船」銀河によるクルーズ。本年3月、中国運輸局が企画した高速船「はやしお」によるクルーズを紹介している。海洋国家でありながら、国民全体になかなか浸透できていないクルーズ。我が業界にとっても水運の課題であるうか。

○今回、橋本進氏は、「渡邊清次郎回想録について（前編）」で、明治9年明治天皇が明治丸で青森、函館と経

て、7月20日に横浜に還幸された。このとき明治丸に乗船していたのが渡邊清次郎氏である。我々海事関係に従事するものとして一海の日一の由来について、再考する意味でも是非一読願いたい。

○野間恒氏は、三姉妹物語「クヌツインニク事件百周年を迎えて（上）」で、「姉妹船を3隻造ると1隻は欠ける」という昔からのジンクスに基づいた切り口から豪華客船クヌツインニクの事故について記述した。ちよつと変わった切り口から描いており、続きはどうか興味わくわくする。

○渡辺輝夫氏は、世界の海と港からその「16」で、今回はボルネオ島のブルネイに向けて船を進め、ブルネイを紹介している。自分の足で行き、見て、そしてその国のいるんな方々と会った体験を書いている。ブルネ

イを知る上での教科書である。

○西口公章氏の「生活航路のいまむかし」で、今回は長崎市の北部、海辺から深く内陸に入ったところに船にちなんだ地名、「船石」、「双船方」があるのを見つけた。氏は現地を訪れ、この地名由来を探ることとしたのである。全国各地で「船」がついた地名はいろいろのくらしいあるのだから。

○6月22日に開催される総会、理事会準備に追われている最中の編集後記である。協会事務室内の若手の配置換えの準備もあり、その他にあれもこれもやらなければならぬ。どこから手をつけたらいいか、本当にバタバタ状態である。こういう時こそ落ち着いて、物事に当たらないと大きな間違いを起しやしない。一呼吸、一呼吸。

原稿

募集

▽船旅の楽しみ、船旅へのアドバイス等をテーマとする旅客船利用者向けの原稿を募集します。

字数は2000字程度。次号原稿締切は平成24年7月10日、宛先は下記協会内、「旅客船」編集室。

本誌の配布先は

- ① 会員及び賛助会員
- ② 関係官庁及び関係団体
- ③ 主要都市図書館

本号掲載広告

- (表紙) …九州郵船株式会社
- (表紙裏) …ニユージャパンマリン(株)、東京海上日動火災保険(株)、(株)損害保険ジャパン
- (扉) …日本定航保全(株)
- (記事) …あいおいニッセイ同和損害保険(株)、東海汽船(株)、三井住友海上火災保険(株)、日本興亜損害保険(株)

禁無断転載

機関誌 **旅客船** 第260号
平成24年5月発行

発行所
一般社団法人 **日本旅客船協会**
〒102-0093
東京都千代田区平河町2-6-4
(海運ビル9階)

TEL 3265-9681 (代)
FAX 3265-9684
URL <http://www.jsships.or.jp>
印刷所 船舶印刷株式会社